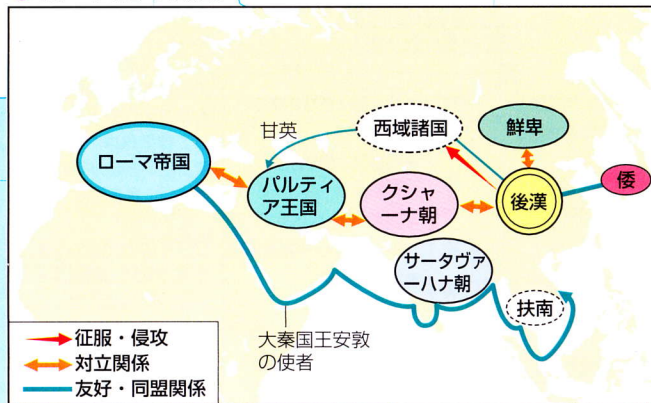


● 後2世紀の概観



- ① 後漢・クシャナ朝・バルティア王国(安息)・ローマ帝国による活発な東西交渉
- ② サータヴァーハナ(アーンドラ)朝・扶南(フナム・フナム)・チャンパー(林邑)は海上交易で繁栄
- ③ 後漢・バルティア王国・ローマ帝国は動揺の時期

世紀	1	2	3	弥生時代
1	ローマ帝国	バルティア王国	クシャナ朝	後漢
2	ローマ帝国	バルティア王国	クシャナ朝	高句麗
3	ローマ帝国	バルティア王国	クシャナ朝	魏
				蜀
				西晋

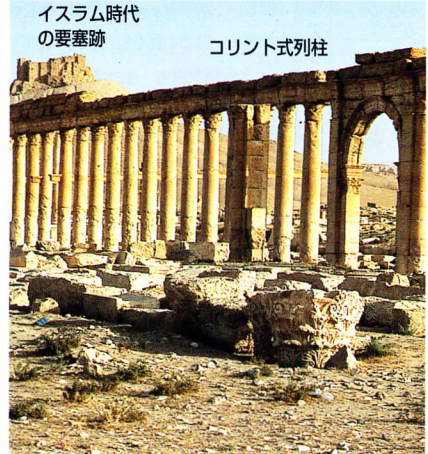
アラビア海 (エリユトゥラー海)

0 500 1000km



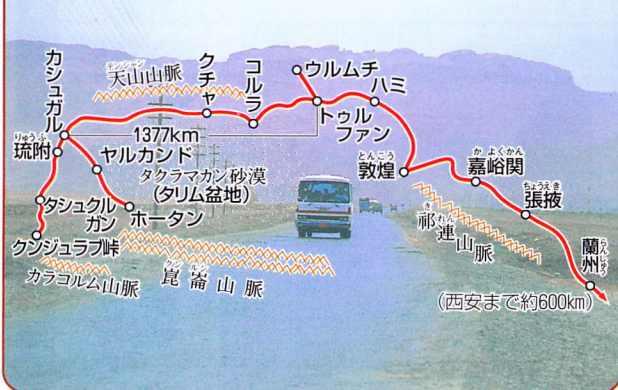
●嘉峪関と祁連山脈 嘉峪関は明代に造営された万里の長城の最西端(甘粛省酒泉県)。古来西域への交通の要衝で、農耕民族(漢)と遊牧民族(匈奴)との攻防の場であった。後方は匈奴の基地祁連山脈。

●バルミラ遺跡 シリア砂漠のほぼ中央にある隊商都市バルミラは、メソポタミアと地中海東岸との中継貿易で繁栄し、3世紀に女王ゼノビアの下で全盛を迎えた。半円形劇場、浴場などギリシア・ローマ施設とオリエントのバール神殿が混在するのが特色である。



イスラム時代の要塞跡 コリント式列柱

シルク=ロード バスの旅
法顯(東晋)や玄奘(唐)などの旅行記に見られるように、古代はラクダの背に乗り、高山や砂漠を命をかけて数か月にわたる旅をした。今日では飛行機、鉄道、長距離バスで快適な旅ができ、トゥルファンからカシュガルまではバスで3日で行ける。また、1996年には、北京から中央アジア諸国を通り、イスタンブルに至る「シルクロード鉄道」も全通した。



当時の日本 (1~2世紀)



日本は弥生時代で、稲作を基盤とした小国が分立争っていた。57年には倭の奴国王が後漢の光武帝に使いを派遣し、金印を賜った。また九州北部の豪族は中国から舶来した銅鏡を勢力誇示の具とした。

